様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2006～2008
課題番号：１８７１０２１３
研究課題名（和文）　現代上座部仏教比丘尼復興運動―スリランカ、タイ、東南アジア諸国の国際的連携
研究課題名（英文）　Movements for *bhikkhuni sangha* restoration in contemporary Theravada Buddhism: network of Sri Lanka, Thailand, and Southeast Asia

研究代表者
伊藤　友美（ITO TOMOMI）
神戸大学・大学院国際文化学研究科・准教授
研究者番号：４０３３７７４６

研究成果の概要：

本研究では、仏教を伝統とするアジア各国の女性による国際的ネットワークによって、10 世紀末以降、断絶していた上座部仏教の比丘尼（女性出家者）の戒脈（師から弟子へと継承される出家者の戒律の系統）とサンガ（出家者集団）が現代社会に復興されてきたプロセスをたどり、その主要なリーダーにインタヴュー調査を重ねてきた。特に、タイにおける比丘尼受戒の拡大を中心に、その発端となったスリランカにおける比丘尼受戒の経緯、韓国比丘尼の役割、上座部と同様の改革を目指したチベット仏教における比丘尼サンガ復興に向けた動きを具体的に明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	る間接経費	合　計
2006 年度	1,500,000	0	1,500,000
2007 年度	1,000,000	0	1,000,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	300,000	3,800,000

研究分野：　東南アジア地域研究、ジェンダー、文化人類学、宗教学、仏教学
科研費の分科・細目：　地域研究・地域研究
キーワード：　比丘尼、尼僧、上座部仏教、チベット仏教、タイ、スリランカ、チベット、モンゴル

１．研究開始当初の背景

歴史的には、共通の開祖ゴータマ・ブッダに端を発しながらも、仏教とその出家者集団は、東南アジア・東アジア・北東アジアの広範な地域に伝播し、それぞれの地域の政治権力・文化的背景のもとで、それぞれ独自の発展を遂げてきた。現代のスリランカ・タイ・カンボジア、あるいは中国・韓国、チベット・モンゴルなどの国家が位置する近隣の諸地域で、共通の仏教伝統に属する僧侶が政治権力の境界を越えて互いに往来し、影響を与え合うことは決して珍しくなかった。しかし、言語や文字、系統の異なる仏教諸派の代表が一堂に会し、英語を共通語としてコミュニケーションを図り、互いの問題について協議し、協力して問題解決に当たるということは、現代仏教に顕著であるといえる。

仏教諸派の女性の代表による国際会議の結果、それぞれの伝統の中で、女性の僧侶（比丘尼）や修行者（スリランカのダサシルマーターやタイのメーチーなど）は、男性の僧侶（比丘）と比べ、宗教的にも、社会的にも、相対的に低い地位にあり、中でも比丘尼の戒脈が途絶えた地域では、特にその傾向が際立っていることが明らかになった。そこで、韓国や台湾など東アジア仏教の比丘尼がスリランカ上座部仏教の女性修行者に対する具足戒の受戒をサポートし、具足戒を受けたスリランカ人女性たちが上座部仏教の衣を着用し、上座部仏教の修行形態に即して宗教実践を行うことにより、現代上座部仏教における比丘尼サンガが再興された。

具体的には、1996 年 12 月、韓国のサンガによって具足戒を受戒した 10 名のスリランカ人女性修行者は、現代上座部仏教において比丘尼サンガを復興し、タイなど、他の上座部仏教諸国の女性たちが比丘尼受戒を実現する端緒になった。仏教では、四衆（比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷）と呼ばれる四種類の仏教徒集団が仏教を支えるとされており、このうち、唯一失われていた比丘尼を復興することは、歴史的に見ても、極めて重要な変革である。グローバル化された現代、伝統的に低い地位に置かれた女性たちが、国際的ネットワークを形成し、伝統の異なる外国の比丘尼サンガの協力により、政治権力による介入や伝統的な宗教的権威から独立して、自身の宗教的・社会的地位の向上に向けた改革運動を行っていることは、注目すべき現象であるといえる。

２．研究の目的

本研究は、現代上座部仏教における比丘尼出家者とその出家制度再興のための運動について検討し、西洋人仏教徒およびアジア各地の女性出家者を広範に包括する国際的・超派的ネットワークと、アジアの各社会における女性修行者および比丘尼の位置づけに関する調査・研究を行うことを目的とした。特に、次の三点を具体的調査目標とした。

（1）スリランカ、タイ、および東南アジア上座部仏教国（カンボジア、ベトナム南部など）における女性仏教徒の現状、比丘尼復興運動の現状、とりわけ運動推進者・反対者それぞれの主観的見解とそれに対する世論の反応に関する資料収集およびインタヴュー調査を行うこと。

（2）「サキャディーター国際女性仏教徒会議」をはじめとする比丘尼復興運動の国際ネットワークや西洋人女性仏教徒らの役割について、資料収集及びインタヴュー調査を行うこと。

（3）上座部比丘尼の復興にあたって授戒師の役割を果たした台湾・韓国の東アジア大乗比丘尼とのネットワークおよび上座部・大乗相互の戒解釈について、資料収集およびインタヴュー調査を行うこと。

３．研究の方法

（1）タイでは、平成 18 年 9 月、平成 19 年 9 月に、比丘尼となったタイ人女性、比丘尼復興に対して懐疑的なメーチー（白衣をまとい八戒を守る女性修行者）および比丘に対するインタヴュー調査を行った。また、比丘尼となった女性たちによる刊行物、主要な仏教雑誌や一般メディアにおける比丘尼復興関連の報道・意見表明の記事を収集し、世論の動向を調査した。スリランカでは、平成 20 年 2 月に、ダサシルマーター（縫い目のない黄衣をまとい十戒を守る女性修行者）の経験を経て比丘尼となった女性たちにインタヴュー調査を行った。また、平成 21 年 3 月には、現代スリランカ比丘尼サンガ復興の端緒となった 1996 年 12 月比丘尼受戒式が行われたインド・サールナートのマハーボーディー協会を訪れ、比丘尼サンガ復興を支援したスリランカ国外に居住するスリランカ人比丘（故人）の活動について聞き取り調査を行った。今回の計画では、時間の制約からカンボジア・ベトナム南部地域での調査を行うことはできなかった。

（2）平成 18 年 7 月には、マレーシアのクアラルンプールで開催された「第 9 回サキャディーター国際女性仏教徒会議」に、平成 19 年には、ドイツのハンブルクで開催された「サンガにおける仏教と女性の役割に関する国際会議」に、また平成 20 年 7 月には、モンゴルのウランバートルで開催された「第 10 回サキャディーター国際女性仏教徒会議」に参加し、研究発表を行うとともに、会議の場で主催者や参加者に対するインタヴューを行った。

（3）平成 18 年 9 月に、韓国のソウルを訪問し、1996 年 12 月のスリランカ人比丘尼受戒式をサポートした韓国人比丘尼にインタヴュー調査を行った。また、その後のスリラン

カ人女性の比丘尼受戒をしている韓国の全国比丘尼会でも、インタヴューを行った。台湾の佛光山という仏教団体も、スリランカにおける比丘尼サンガ復興・定着に大きな役割を果たしているが、時間の制約から、台湾での調査は断念した。ただし、国際会議での研究者・比丘尼らと交流・意見交換を行い、台湾比丘尼に関する一定の知見を得ることができた。

４．研究成果

(1) タイにおける比丘尼サンガ復興については、〔雑誌論文〕①・④、〔学会発表〕①・②・③・④・⑤、〔図書〕②として、発表した。〔学会発表〕②・③の内容を総合したものは、②の会議主催者の編集により、共著として刊行される予定である。タイでは、スリランカにおける上座部仏教比丘尼サンガ復興に啓発され、2001 年以降、沙弥尼・比丘尼となる女性修行者の数が拡大した。スリランカでは、女性の比丘尼受戒が伝統的な比丘サンガおよび社会に受け入れられ、ほぼ、定着したといえるが、タイでは比丘のみによって構成される国家サンガが比丘尼サンガ復興に対して積極的支援を供していないことから、比丘尼となった女性たちが社会的トラブルに見舞われることが多く、受戒者数の拡大には大きな抑制がかかっていることが分かった。スリランカに関しては、〔学会発表〕④において報告したが、今後、雑誌論文としての発表を計画している。

(2) 比丘尼サンガ復興を目指す仏教徒女性の国際会議に参加し、会議を通じて得られたチベット仏教における比丘尼サンガ復興・モンゴルにおける尼僧の地位向上に向けた改革に関する知見は、〔雑誌論文〕②・③として発表した。

(3) 上座部比丘尼サンガ復興を支援した韓国・台湾の東アジア仏教サンガの役割については、調査によって得られた知見を現在までに発表できていないが、いずれ本研究成果を集大成したモノグラフに盛り込む予定である。東アジア仏教の女性に関しては、第二次大戦前後の台湾における仏教女性修行者の比丘尼受戒に関する論文を日本語に翻訳したほか、日本の禅の尼僧の伝記を英語・タイ語に抄訳し、タイで刊行した。

以上の成果を総括すると、特にタイ上座部仏教における比丘尼サンガ復興運動について、ある程度まとまった研究成果を上げることができたといえる。加えて、スリランカ、韓国、台湾、日本、チベット、モンゴルにおける仏教の尼僧の宗教的・社会的地位向上に向けた運動について横断的に調査し、それぞれの社会的条件における課題と改革の取組を比較する視点を得ることができた。将来的には、これらを現代仏教のグローバル化・ジェンダーの観点から総合し、モノグラフとすることができると考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4 件）

① 伊藤友美「現代タイ上座部仏教における女性の沙弥尼出家と比丘尼受戒―理念のアピールと語られない現実―」東南アジア学会(編)『東南アジア―歴史と文化―』第 38 号、64－105 頁、2009 年、査読有
② 伊藤友美「モンゴル国における仏教復興と尼僧―バクラ・リンポチェの役割と伝統 の再移植―」神戸大学大学院国際文化学研究科紀要『国際文化学研究』第 31 号、63－110 頁、2008 年、査読無
③ 伊藤友美「チベット仏教におけるジェンダー間の平等を求めて―ダライ・ラマ、西洋人比丘尼、国際サンガと研究者―」宗教と社会学会（編）『宗教と社会』第 14 巻、87－105 頁、2008 年、査読有（展望）
④ Tomomi Ito, “Dhammamata: Buddhadasa Bhikkhu’s notion of motherhood in Buddhist women practitioners”, *Journal of Southeast Asian Studies*, 38(3), 409-432, 2007, 査読有

〔学会発表〕（計　5 件）

① Tomomi Ito, “Questions of ordination legitimacy for the newly ordained Theravada *bhikkhuni* in Thailand”, 10th Sakyadhita International Conference on Buddhist Women, Hotel Mongolia, Ulanbaatar, Mongolia, 1 July 2008.
② 伊藤友美「上座仏教と尼僧：タイ・スリランカの比丘尼復興」公開講演会「旅するアジア」上智大学アジア文化研究所、2008 年 5 月 16 日

③ 伊藤友美「タイで上座部比丘尼サンガの復興は可能か？―出家の正当性をめぐる諸問題―」第36回「東南アジアの社会と文化」研究会、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、2008年3月21日

④ Tomomi Ito, "*Bhikkhuni* restoration in Theravada Buddhism: grounds of authenticity for newly ordained *bhikkhunis*", International Congress on Buddhist Women's Role in the Sangha, Hamburg University, Germany, 19 July 2007.

⑤ Tomomi Ito, "Dhammamata Hermitage: women inheritors of Bhikkhu Buddhadasa's *dhamma* teaching", 9th Sakyadhita International Conference on Buddhist Women, Sau Seng Lum (Puchong) Exhibition Centre, Kuala Lumpur, Malaysia, 20 July 2006.

〔図書〕(計　2件)

① Bhikkhuni Shundo Aoyama, *Ngam yang sen: mallet phan haeng tham chak mum mong khong phuying* (Zen beauty: seeds of *dhamma* from a woman's perspective) translated by Chofa Jettana, edited by Pracha Hutanuwatr and Tomomi Ito, co-authored by Tomomi Ito (Bangkok: Samnakphim Semsikalai, 2006), in Thai, 共監訳、共著、査読無

② Tomomi Ito, et al, *Out of the Shadows: Socially Engaged Buddhist Women*, edited by Karma Lekshe Tsomo (Delhi: Sri Satguru Publications, 2006), 共著、査読無

〔その他〕

① ステファニア・トラヴァニン（著)、伊藤友美（訳)「台湾における尼僧と女性の仏教実践―歴史的展開と新しく生み出される価値」神戸大学大学院国際文化学研究科紀要『国際文化学研究』第29号、117－131頁、2007年、査読無

② Tomomi Ito, "The life of Master Shundo Aoyama: a Zen nun's quest in *dhamma*", WFB Review, 44(1), 71-79, 2007, 査読無

６．研究組織

(1)研究代表者
伊藤　友美　(ITO TOMOMI)
神戸大学・大学院国際文化学研究科・准教授
研究者番号：４０３３７７４６

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし